

西日本高速道路株式会社

ソーシャル・ファイナンス・フレームワーク

2021年6月



みち、ひと…未来へ。



西日本高速道路株式会社

当社概要と中期経営計画「進化2025」

- 平成17年10月1日に、日本道路公団の分割・民営化に伴い全額政府出資の株式会社として設立されました

グループ理念

私たちは、高速道路の安全・安心を最優先に、高速道路の進化に挑み続け、地域の発展と豊かな未来の実現に貢献します。

商号	西日本高速道路株式会社(ブランドネーム:NEXCO(ネクスコ)西日本) West Nippon Expressway Company Limited
目的	高速道路の新設、改築、維持、修繕その他の管理を効率的に行うこと等により、道路交通の円滑化を図り、もって国民経済の健全な発展と国民生活の向上に寄与すること
資本金	475億円(全額政府出資) ※政府による株式の常時1/3以上の保有義務あり
設立年月日	2005年10月1日

中期経営計画「進化2025」における5つのビジョンと重点施策

01 高速道路の安全・安心を いつまでも守り抜く	点検補修の進化、大規模更新・大規模修繕の推進、交通安全対策の進化
02 多発する自然災害から 地域と暮らしを守り抜く	ネットワークの進化～ミッシングリンクの解消等～、ネットワークの強化～暫定2車線区間の4車線化～、高速道路の強靱化～耐震性の向上～、災害対応力の強化
03 新しいモビリティ社会に向けて 高速道路を進化させる	高速道路機能の進化、物流支援～休憩施設の充実～、料金所のキャッシュレス化・タッチレス化、道路情報提供の高度化、通信ネットワークの進化
04 高速道路の顧客体験価値を高める	新しい価値を提供するSA・PAの進化
05 持続的に進化する企業を目指す	高速道路を活用した地域貢献、社員が活躍できる環境づくり、DX(デジタルトランスフォーメーション)の推進、環境に関する取り組みの推進～脱炭素社会に向けて～、海外事業の発展、SDGs達成への貢献

我が国が抱える社会的課題と当社業務の関係

- 我が国においては、「社会資本整備重点計画」等において示されているように、加速化するインフラの老朽化、激甚化・頻発化する自然災害、人口減少等による地域社会の変化への対応や、「交通安全基本計画」等において示されているように、高速道路における安全・安心の確保が求められている状況にあります
- また、当社の事業エリアである西日本地域は、他の地域と比較して、特に台風・豪雨災害などの気象災害の被害を受けやすいという課題を抱えています
- 我が国が抱える社会的課題と当社業務の関係は下記のとおりです

当社の道路等建設事業(=ソーシャルプロジェクト)

①高速道路の長期保全

②高速道路の修繕・災害復旧

③高速道路の新設

④高速道路の改築

事業(=ソーシャルプロジェクト)の実施による課題解決

我が国が抱える社会的課題

①加速化するインフラの老朽化

②激甚化・頻発化する自然災害

③人口減少等による地域社会の変化

④高速道路における安心・安全の確保

西日本地域特有の課題=他の地域と比較し、特に台風・豪雨災害の被害を受けやすい

①1995年以降の「災害救助法」適用回数

②2013年8月30日に運用が開始された「大雨特別警報」の発表回数

③過去5年の「激甚災害」の適用実績数

半数以上を西日本地域が占める

課題解決による特に社会へのポジティブなインパクト

受益者(=対象とする人々):主に高速道路の利用者や沿線地域に住む人々、また災害発生時には罹災者を含む一般の人々

ソーシャル・ファイナンス・フレームワークの概要①

- 当社は、ICMA(国際資本市場協会)が定めるソーシャルボンド原則の4つの核となる要素に基づきソーシャル・ファイナンス・フレームワークを策定。本フレームワークについて、2021年6月30日に外部評価機関である株式会社格付投資情報センター(R&I)からソーシャルボンド原則2021に適合している旨のオピニオンを取得しました

1 調達資金の使途

- 当社が本フレームワークで発行するすべての債券及び金融機関等からの借入は、道路建設等事業(＝ソーシャルプロジェクト)に充当され、我が国(特に、当社の事業エリアである西日本地域)が抱える社会的課題の解決に貢献します
- 対象プロジェクトにおける具体的な路線名、工事内容等については、独立行政法人日本高速道路保有・債務返済機構(高速道路機構)との協定により決定されており、進捗状況などは、当社ウェブサイト内「会社案内」>「約款・法令・協定」ページ等で確認可能です

社会的課題	ソーシャルプロジェクト	当社の取組み
1 加速化するインフラの老朽化	高速道路の長期保全	■ 高速道路リニューアルプロジェクトをはじめとするNEXCO西日本インフラ長寿命化計画の実施 － メンテナンスサイクルの確立と効率的な修繕等、特定更新等工事の実施、点検等に必要な基準類の整備 等
2 激甚化・頻発化する自然災害	高速道路の修繕・災害復旧	■ 「高速道路における安全・安心実施計画」の推進 － 大雨に対する対策、地震に対する対策、工事規制の影響の最小化
3 人口減少等による地域社会の変化	高速道路の新設	■ 新名神高速道路の整備 ■ 高速道路網が繋がっていない区間(ミッシングリンク)の整備 ■ 4車線化事業の実施・拡大による高速道路ネットワークの更なる機能強化
4 高速道路における安全・安心の確保	高速道路の改築	■ 暫定2車線区間の4車線化 ■ 自動運転等のイノベーションに対応した高速道路の進化 ■ 世界一安全な高速道路の実現

ソーシャル・ファイナンス・フレームワークの概要②

2 プロジェクトの評価と選定のプロセス

- 高速道路の新設事業は、国土交通省が定める要領に基づき新規事業採択から事業完了後まで適切な評価がなされており、修繕事業は道路法施行規則で義務付けられている点検サイクルに基づき適切に実施されています（新規高速道路整備事業、既存高速道路整備事業、高速道路修繕事業毎に、評価・選定のプロセスを有する）

3 調達資金の管理

- 当社の資金は、法令等に基づき道路管理事業やその他の事業から区分された道路建設等事業に充当され、厳格に管理されています。また、資金の充当状況は高速道路機構との協定に基づく収支予算の明細においても開示しており、社会経済情勢や道路政策の変化に応じ、適宜更新されています。さらに、調達資金は年度内に対象プロジェクトに充当されるため、未充当資金は発生しません（仮に発生した場合、1年以内の安全性の高い金融資産で運用）

4 レポーティング

- 資金充当状況は、当社ウェブサイト内「会社案内 ＞ 約款・法令・協定」で、社会的課題の解決に関するインパクト・レポートについては、当社ウェブサイト内「IR情報 ＞ ソーシャル・ファイナンス」のページにて公開します

ソーシャルプロジェクトのご紹介（一例）



九州自動車道 溝辺鹿兒島空港IC～加治木JCT
（のり面土砂崩れ／高速道路の災害復旧）



中国自動車道 御堂筋橋
（大規模更新／高速道路の長期保全）



新名神高速道路 大津JCT付近
（ネットワークの機能強化／高速道路の新設）

レポーティング

- 当フレームワークに基づくソーシャルボンドまたはソーシャルローンの調達額及び資金の充当状況や、社会的課題の解決に関するインパクト・レポート等を、以下により年次で開示する予定です

1 資金充当状況に関するレポーティング

- 調達資金のうち、債券で調達する資金については、資金使途、及び金額、並びに充当予定時期を、発行登録追補書類にて開示します
- 債券及び金融機関等からの借入の資金充当状況は、当社及び高速道路機構ウェブサイトの収支予算の明細等にて公開します

【参考URL】 当社の収支予算の明細 <https://corp.w-nexco.co.jp/corporate/covenant/>

2 インパクト・レポーティング

- 社会的課題の解決に関するインパクト・レポートは、プロジェクト毎に定量指標（アウトプット指標・アウトカム指標）によって開示します
- インパクト指標については、定量指標によって開示することが困難なものについては定性的に公表します

社会的課題	ソーシャルプロジェクト	アウトプット指標（一例）	アウトカム指標（一例）
1 加速化するインフラの老朽化	高速道路の長期保全	■ 特定更新事業の完成高 ■ 橋梁の点検率	■ 快適走行路面率（快適に走行できる舗装路面の車線延長） ■ 修繕着手済橋梁数
2 激甚化・頻発化する自然災害	高速道路の修繕・災害復旧	■ 高速道路資産の営業延長 ■ 橋梁の耐震補強数	■ 橋梁の耐震補強対策率 ■ 通行止め時間（雨・雪・事故・工事等に伴う年間の平均通行止め時間）
3 人口減少等による地域社会の変化	高速道路の新設	■ 新規開通路線延長（ミッシングリンクの整備延長を内訳表示）	■ 新規路線の開通によって短縮される、沿線主要都市間の移動時間
4 高速道路における安全・安心の確保	高速道路の改築	■ 逆走対策箇所数 ■ 暫定2車線区間の4車線化延長	■ 逆走事案件数の減少率 ■ 死傷事故の減少率

環境へのネガティブインパクトに対する考え方・軽減策

- 高速道路ネットワークがもたらすポジティブインパクトには、自動車による排出ガスの発生抑制が挙げられます
- 一方、道路建設等事業においては森林伐採や、電気・燃料・水等の資源、アスファルト等の資材を消費するといったネガティブインパクトが生じます。当社ではこの軽減策として、「環境基本計画」を策定して環境保全に取り組んでいます

1 自動車走行による排出ガスのネガティブインパクトに対する当社の考え方

- 自動車が高速道路を利用することによって、燃料消費の効率性が高まるほか、自動車交通が一般道から高速道路に転換し、一般道の交通集中の緩和や分散が図られることによって、自動車による排出ガスの発生が抑制されると考えられます。また、高速道路が開通することによる交通量の増加分を加味しても、当該地域全体では自動車走行に起因する温室効果ガスや大気汚染物質の発生が抑制されると考えられます

2 道路建設等事業実施によるネガティブインパクトと軽減策

- 道路建設等事業によるネガティブインパクトには、高速道路の建設における、森林伐採や建築物等の取り壊し、高速道路の維持管理における、電気・燃料・水等の資源やアスファルト・コンクリート等の資材を消費するといったことが挙げられます
- 当社では斯かるネガティブインパクトを軽減するため、「環境基本計画」を策定して、環境保全・改善に取り組んでいます
- その一環として、盛土のり面の樹林化を図り、生態系保全、CO₂の固定に取り組んでいます



新名神高速道路宝塚北SAの急速充電システム



ほかの建設工事等で発生した土砂を受け入れ、利用しています



新名神高速道路沿線の淀川では、ヨシの生育環境の保全に取り組んでいます

環境方針(2008年制定、2021年一部改訂)

脱炭素社会
の実現

循環型社会
の形成

自然と共生する
社会の推進

環境基本計画(環境方針の3テーマで構成し、5ヵ年毎に計画を策定)

環境管理会議において、毎年度計画達成に向けた
具体目標(アクションプラン)を立て、実績を評価

事業を通じたSDGs達成への貢献

- 当社グループでは「事業活動を柱として、社会の持続的な発展に貢献します」というCSR活動方針のもと、ステークホルダーとの対話で得られたご意見を参考にしながら、CSRの重要課題を特定しています
- また、2030年に向けて世界的な優先課題やあるべき姿を明らかにしている「持続可能な開発目標(SDGs)」に、当社グループのマテリアリティを中心とする関連した取り組みを通じて貢献することをめざしています

重要課題 (マテリアリティ)	関連するSDGs	当社の取組み
社会基盤である 高速道路の整備と 長期保全	 	■ 高速道路ネットワークの機能強化(4車線化による交通渋滞解消や安全性の更なる向上) ■ スマートICの整備による高速道路の利便性向上 ■ 保全事業システムの高度化、効率化
災害対応力の強化		■ 耐震補強対策の加速による地震に強い高速道路の実現 ■ 一般道路との緊密な連携・提携を図るための、全24府県との災害協力協定の締結 ■ 自衛隊による被災地の救助活動のため、被災地や道路の状況の情報の共有化、初動対応の連携などを目的とした連携協定の締結
脱炭素社会の実現	  	■ 事業活動に伴う電気使用量の削減、太陽光発電の導入、及び樹林化 ■ 高速道路の自動車交通によって発生する二酸化炭素排出量を削減するための渋滞対策
「安全」「環境」 「地域貢献」の 取り組み	 	■ 交通安全の啓発活動 ■ 西日本各地での森林再生への取り組み ■ 障がい者の方への就労支援 ■ 地域社会の清掃美化活動 ■ 校外学習活動協力としての職場体験学習の実施

みち、ひと・・・未来へ。

